



とのやま

【学校教育目標】生き抜く力を身につけ、自ら輝く生徒の育成

【目指す生徒像】自立のために自律できる生徒



富士見台中学校HP

学びと感動の一日 ～よつば学級校外学習～

穏やかな春の日ざしの中、2月28日（金）に、よつば学級の校外学習が実施されました。今回の校外学習では、事前学習で学んだこと、スキー宿泊学習や修学旅行の経験が存分に発揮され、生徒達の頼もしい姿が随所に見られました。

まずは集合。7：50～8：00という約束のとおり、早すぎず遅すぎず全員が集合しました。これは当たり前なのですが、結構できないものです。スキー宿泊学習でも修学旅行でも「早すぎる生徒」「遅れる生徒」がいるものです。朝一番の集合がきちりできたことで、「今日はもうこの後も大丈夫だな」と安心しました。

電車内ではマナーを守り、複雑な乗り換えもスムーズに移動しました。そのため、予定より早くすみだ水族館に到着することができました。館内は班別行動。珍しい生き物に驚き、色とりどりの魚やユニークな動きをする海の生物たちに癒されながら、じっくり見学しました。生徒達は目を輝かせ、歓声を上げたり、感想を話したりしていました。見学後は、水族館内のショップでお買い物。ショップには多種多様な商品が並び、生徒たちは目移りしながら自分や家族へのお土産を選んでいました。

お昼は人気のハンバーグ屋へ。行列覚悟で向かいましたが、思ったほど待たずに入店できました。お目当てのハンバーグは想像よりも大きく、あふれる肉汁にみんな大満足でした。

仲見世通りは、美味しいものを楽しみながら、ゆったり散策しました。小さな子ども連れの家族との交流もあり、お子さんが蹴ったボールを拾って手渡し、その後、またボールが飛んできてもいいようにしゃがんで待っている生徒の姿に、気配りと優しさを感じました。その家族は去り際に、その生徒に笑顔で手を振りながら去っていきました。

帰りの電車では、遅延の影響により予定より遅い電車に乗りました。幸い始発でしたので全員が座ることができました。みんなウトウトする中で、途中の駅で乗車してきた高齢の方々に気づいた生徒がスッと立ち上がり「どうぞ座ってください」と。自分も疲れているはずですが、相手を思いやり、行動できる姿に感動しました。予定より遅くなりましたが、無事に鶴瀬駅に到着。疲れた様子も見られましたが、帰りの会までしっかり取り組みました。解散後、全員が自宅に到着したことを電話にて報告し、すべての活動が終了しました。

今回の校外学習は、生徒たちの責任感と自主性、思いやりに感心した一日となりました。そして、今回の経験を生かしてこの後の学校生活もさらに多くのことを学んでいくことを期待しています。



3月11日に考える ～防災の心得～

2月26日に岩手県大船渡市で発生した山林火災。ようやく延焼の恐れがなくなったとして徐々に避難指示が解除されてきました。今回の山林火災では、市の面積の9%にあたる約2900ヘクタールが焼失しました。また、これまでに約80棟の住宅や空き家が被害に遭いました。そして、残念ながらお亡くなりになられた方も。

大船渡市の淵上清市長は、「東日本大震災から14年でやっと再生が軌道に乗り始めたところでの被災となり、国や県には力強い支援をお願いして復旧・復興を進めていきたい」と語っていました。

東日本大震災から、明日で14年目を迎えます。大船渡市も東日本大震災で震度6弱を観測し、16m以上の津波が街を襲いました。再生が軌道に乗り始めたところでの今回の山林火災。一刻も早い復旧・復興を祈るばかりです。

私たちは東日本大震災や今回の大船渡市の山林火災などから、どのように災害に備え、対応すべきかを考えなければいけません。特に「自助」「共助」「公助」の重要性について理解を深めることはとても大切です。

「自助」は、自分の命を守るための行動です。災害時には冷静に判断し、適切な行動を取ることが大切です。例えば、地震が起きたら机の下に隠れる、窓から離れるなどの基本的な行動を心がけましょう。阪神・淡路大震災の時、多くの家庭が家具の固定や非常用持ち出し袋の準備をしていたため、迅速に避難でき、多くの命が救われました。

「共助」は、地域や周りの人々と助け合うことです。災害時には、隣人や友人と協力し合うことで、より多くの命を救うことができます。例えば、東日本大震災では、地域の住民が協力して避難所を運営し、食料や水を分け合いました。また、日頃の防災教育や防災訓練により、素早い避難行動をとり、多くの人の命を救うことができた地域も少なくありません。

「公助」は、政府や自治体による支援です。災害時には、行政の指示に従い、避難所や支援物資を活用することが重要です。例えば、能登半島沖地震の時には、自治体が迅速に避難所を設置し、必要な物資を提供しました。熊本地震では、自治体が迅速に避難所を開設し、被災者に必要な物資や情報を提供しました。

「天災は忘れたころにやってくる」と言います。東日本大震災以降、日本各地で多くの災害が起きています。近い将来、関東にも大きな地震が起きるかもしれません。そのため、日ごろから正しい判断と行動ができるように意識をもって生活しましょう。そして、災害が起きたら、どうか地域の役に立つ存在となってください。

3月11日は、東日本大震災の記憶を心に刻み、「自分の命は自分で守る」ことを考える一日にしましょう。



政府広報オンライン
「災害への備えを、
日本の標準装備に。」